

- of occurrence, mineralogy and amenability to mineral beneficiation. CIM Bull., 66, no. 732, 113—130.
- Sasaki, A. and Ishihara, S. (1979): Sulfur isotopic composition of the magnetite-series and ilmenite-series granitoids in Japan. Contrib. Mineral. Petrol., 68, 107—115.
- (1980): Sulfur isotope characteristics of granitoids and related mineral deposits in Japan. Proc. 5th IAGOD Symp., Snowbird, Utah, 1978, E. Schweizerbart'sche Verlagsbuchhandlung Germany, Stuttgart, 325—335.
- Sato, K. (1980a): Distribution of fluorite deposits in Japanese islands. Mineral. Deposita, 15, 327—334.
- (1980b): Tungsten skarn deposit of the Fujigatani mine, Southwest Japan. Econ. Geol., 75, 1066—1082.
- 佐藤興平・石原舜三 (1980): 甲府花崗岩体の磁鉄鉱系/チタン鉄鉱系花崗岩類. 鉱山地質, 31, 56.
- Sato, K., Shimazaki, H. and Chon, H. T. (1981a): Sulfur isotopes of the ore deposits related to felsic magmatism in the southern Korean peninsula. Mining Geol., 31, 321—326.
- Sato, K., Shibata, K., Uchiumi, S. and Shimazaki, H. (1981b): Mineralization age of the Shimyeni Zn-Pb-Mo deposit, Taebaegsan area, southern Korean peninsula. Mining Geol., 31, 333—336.
- Shimazaki, H. (1980): Characteristics of skarn deposits and related acid magmatism in Japan. Econ. Geol., 75, 173—183.
- Takahashi, M., Aramaki, S. and Ishihara, S. (1980): Magnetite-series/ilmenite-series. vs. I-type/S-type granitoids. Mining Geol., Spec. Issue no. 8, 13—28.
- 武内寿久彌 (1980): 中国の金属鉱床を見学して. 鉱山地質, 29, 334—340.
- 立見辰雄 (1979): 中国国家地質総局, 長春地質学院および南京大学地質系の概況, 地質雑, 85, 599—603
- Wones, D. R. (1981): Mafic silicates as indicators of intensive variables in granitic magmas. Mining Geol., 31, 191—212.
- Yan, M. Z., Wu, Y. L. and Li, C. Y. (1980): Metallogenic systems of tungsten in southeast China. Mining Geol., Spec. Issue no. 8, 215—222.
- 楊超群, 田煥章・楊世義 (1980): 湖南省の網状グライゼン—スカルン複合型 W-Bi-Mo 鉱床. 中国地質科学院宜昌地質鉱産研究所分刊, 1, 76—93 (中国語).

地学と切手

コンゴ大型動物 2 種の切手

P. Q.

1970年にコンゴ共和国から発行された先史世界動物切手から2種を紹介したい。

ケントロサウルス 15 F

ジュラ紀後期 東アフリカに棲息した恐竜で鳥盤目に属する。外形は剣竜のステゴザウルスによく似て背中に棘があるが 対になっているのがステゴザウルスとは異なる。ある学者はこの動物は2本足にもなれたと考えているので 外敵と闘う時はステゴザウルスよりも有利だっただろう。いずれにしてもステゴザウルスと同様に脳は小さく 利口な方ではなかったらしい。草食で陸地に住んでいた。 体長約5m.

アルソノイテリウム 80 F

重脚目を代表する漸新世前期 エジプトに産する動物。古第三紀初頭まで 北アフリカはテチス海に覆われてエジプト全体は古ナイル川の河口だった。 そのあたりには原始的なクジラ・ジュゴン・ウミヘビ・サメ・ワニなどが広大な河口に泳いでいたが, 漸新世には海はようやく北へ退きはじめ ここは森林とサバンナに覆われた河口三角州地域となり 多くの大型動物が住んでいた。今ではカイロから西南約100kmのところにあるファユーム累層から産出する豊富な化石が それを示している。



ファユームの陸上哺乳動物の最大のものが 体長3～4mにわたる4本脚のアルソノイテリウムである。鼻の上に大きなのが2本 さらに目の上に小さなのが2本ついていて 足はあくまで太く サイとゾウにも劣らない堂々とした威容を誇っていた。大きな2本のツノは若い時は軟骨で、年をとると硬くなった。そして武器として使用された。草食だったが同時に生きていたトラの先祖にさえ恐れられた。アルソノイテリウムはその祖先も子孫も判明せず 種としての寿命は短く 絶滅している。